

## 5 研究の経過

平成20年度

月	日	研修会 他	主 な 内 容
4	28	校内研修会（1）	学びの質を高める学習規律づくり
5	14	校内研修会（2）	校内研究グランドデザイン・分科会構築
6	16 21	校内研修会（3） 道徳検証授業	各教科年間指導計画作成について （道徳授業地区公開講座） 講師 中央区教育委員会指導主事 宮崎 宏明 先生
7	7	校内研修会（4）	分科会①（研究計画 研究紀要作成構想）
8	28	校内研修会（5）	研究の進め方・分科会報告 講師 相模女子大学教授 佐藤 道幸 先生 中央区教育委員会指導主事 宮崎 宏明 先生
9	29	校内研修会（6）	全体会（分科会のもち方について） 分科会②（第1分科会 検証授業について）
10	15	校内研修会（7）	検証授業（数学、社会） 講師 東京農業大学教職課程教授 緑川 哲夫 先生 帝京大学教授 浦野 東洋一 先生
11	17	校内研修会（8）	分科会③（分科会の成果とまとめ）
12	17	校内研修会（9）	学力向上の取り組みと生活習慣・学習習慣について 講師 帝京大学教授 浦野 東洋一 先生 昭和女子大学講師 石橋 昭 先生 （保護者も参加）
1	14	校内研修会（10）	成果と課題まとめ
2	18	校内研修会（11）	家庭学習の充実やレディネス指導 （生活と学習のサプノート活用の活用） 講師 東京農業大学教職課程教授 緑川 哲夫 先生
3	2 9	校内研修会（12） 先進校視察	次年度の構想・研究紀要完成 岩手県矢巾町立矢巾北中学校

平成21年度

月	日	研修会 他	主 な 内 容
4	9	校内研修会（1）	校内研究グランドデザイン確認
5	11	校内研修会（2）	教育計画の見直しと検討・検証授業日程と担当決定
6	17	校内研修会（3）	研究のまとめ方等 講師 帝京大学文学部教育学科長教授 浦野 東洋一 先生 帝京大学教職大学院准教授 石橋 昭 先生
7	15	校内研修会（4）	全体会（教育計画確認） 分科会（紀要原稿分担確認）
8	19	先進校視察	山梨県西八代郡市川三郷町立三珠中学校
	31	校内研修会（5）	学習力サポートテスト分析 講師 中央区教育委員会統括指導主事 佐藤 太 先生
9	15	校内研修会（6）	検証授業（理科） 講師 中央区教育委員会統括指導主事 佐藤 太 先生 中央区教育委員会指導主事 長町 正弘 先生
10	5	校内研修会（7）	検証授業（国語） 講師 目黒区立田道小学校副校長 熊谷 恵子 先生 中央区教育委員会統括指導主事 佐藤 太 先生
	20	校内研修会（8）	全体会 研究の経過、今後の予定 講師 相模女子大学学芸学部子ども教育学科教授 佐藤 道幸 先生 中央区教育委員会統括指導主事 佐藤 太 先生
11	18	校内研修会（9）	検証授業（英語・保健体育） 講師 中央区教育委員会統括指導主事 佐藤 太 先生 教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 山村 智治 先生
12	16	校内研修会（10）	分科会（原稿まとめ）
1	13	校内研修会（11）	研究発表会準備
2	5	研究発表会	公開授業・検証授業（全教科） 講師 帝京大学教授 浦野 東洋一 先生 相模女子大学教授 佐藤 道幸 先生 東京農業大学教授 緑川 哲夫 先生 帝京大学准教授 石橋 昭 先生
	17	校内研修会（12）	今年度のまとめ・次年度の構想

## 6 研究の流れ

### (1) 平成19年度

校内研修の一環として平成19年度から本研究の取り組みを始めた。この年は、分科会をどのように作っていったらよいかから始まり、課題を明確化することにより各分科会の内容を今後3年間を見通して作り上げていくこと、実態調査や分析、指導計画・成績通知・サブリノート等の試案を提示したり試行実践を行った。これにより、平成20年度からの研究を比較的スムーズに進めることができた。

### (2) 平成20年度

2年間の区の研究指定を受けるとともに、本研究の内容が、学力向上につながっていくこともあり、3年間の文部科学省の学力向上実践研究推進校の指定を受けることとなった。平成20年度は、主に研究内容全体及び分科会での研究内容について全教員が理解を深めていくことを目標に取り組んだ。研究に当たり、研究全体を見通して指導助言を頂ける講師、各分科会ごとの内容にかかわる指導助言を頂ける講師をそれぞれ依頼した。講師の先生方には、校内研修会において講演並びに指導助言をいただき、全体及び各分科会の研究内容を深めていった。また、校内研修会とは別に、年間指導計画の作成や各教科において読解力・思考力・判断力・表現力とは何かという点などをまとめていき、研究につなげていった。

検証授業については、後期より少人数授業において基礎コース・標準・発展コースに分かれている数学科と、クラス2分割で地理・歴史を別々に実施している社会科で実施した。この実践は、すでに少人数指導を行っている英語科や国語科だけでなく、一斉授業で行っている理科・音楽科・美術科・保健体育科・技術家庭科などにおける指導方法の研究につなげていった。

### (3) 平成21年度

平成21年度は、全教職員が研究内容について共通理解し、授業実践をしていくことを目標とした。職員の入替わりもあり、年度当初は研究内容の再確認と平成20年度における課題を踏まえた研究の再構築を行った。各分科会においても実践の結果を分析し、改善を図っていった。

授業実践では、3回の校内研修による検証授業（理科・国語・英語・保健体育）だけでなく、通常の授業の中で全教員が研究内容の実践を行っていった。

第2分科会の評価方法の工夫における通知表の工夫・改善や、学習面談、第3分科会のサブリノートの活用など活用・実践を深め分析を行った。

### (4) 平成22年度

平成21年度までの結果をもとにし、変容やメリット・デメリットの分析をし研究のまとめとする予定である。